



ちょっと谷戸沢 ～里山で生まれる命～

かつてはここ、日の出町でも、集落とそれを取り囲む林や田畑からなる「里山」が広がっていましたが、人口の減少や高齢化、ライフスタイルの変化によりその多くが失われてしまいました。谷戸沢処分場は、最終処分場としての役割を終えたその後、さまざまな自然再生の取り組みを行い、里山的な環境を復活させています。今年も春を迎えた谷戸沢処分場ではたくさんの命が生まれています。その中でも今回は里山環境を代表する「オオムラサキ」と「トウキョウサンショウウオ」のベビーたち（幼虫・幼生）について紹介します。

オオムラサキ

おはよう！



サクラの花びらが落ちる頃、谷戸沢処分場周辺の森では昨年卵から孵化したオオムラサキの幼虫たちが無事冬を越え、休眠から目覚めて活動を始めました。これからエノキの葉を食べてどんどん大きくなります。まるまると太った幼虫は、6月中旬～下旬ごろに蛹になり、羽化して成虫になります。成虫になったオオムラサキはクヌギやコナラなどの樹液を吸います。樹液はカミキリムシやボクトウガなどがつけた傷から出てきます。オオムラサキは木に傷をつけることが出来ません。オオムラサキが生きていくためには、エノキやクヌギ、コナラ等の樹木やその他の昆虫類の助けが必要なのです。



もう春かあ、
起きなくっちゃ...

休眠明けの4齢幼虫



...う～んっ！
よいしょっと！

脱皮直前の4齢幼虫

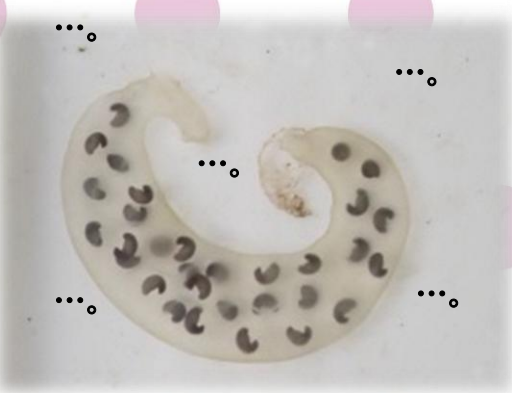


さあ、もっと食べるぞ～！

5齢幼虫

トウキョウサンショウウオ

寒さが和らぎ始めた早春、今年もトウキョウサンショウウオが谷戸沢処分場周辺にたくさんの卵を産みに来てくれました。成体は普段、森林の落ち葉の下に住んでいます。2月下旬頃から産卵のために、水辺に集まってきます。卵（卵のうと言います）はバナナのような形をしていて、浅い池やたまりに産みつけられます。この卵のうの大きさは成体と比べるとずっと大きい?!なぜでしょう。これは、水辺に産卵した後、卵を包んでいる寒天のような部分が水を吸ってふくらむためだと言われており、クッションのように、卵を捕食や傷から守っています。谷戸沢処分場の周辺でみられるトウキョウサンショウウオはバナナ型ですが、別の地域でみられるサンショウウオには、コイル型（トウホクサンショウウオ）やアケビ型（クロサンショウウオ）など、サンショウウオの卵は種類によって形はさまざま、それぞれ面白い形をしています。



尾の部分ができてきました
(尾芽胚期)



鰓ができてきました
(鰓形成期)



窮屈になってきたなあ
そろそろでるぞ～！

孵化する直前



これからは一人で
がんばらなきゃ！

孵化した幼生

元気で大きくおなり...



トウキョウサンショウウオ
の卵のう(バナナ型)

別の地域でみられるサンショウウオの卵のう



トウホクサンショウウオ(コイル型)



クロサンショウウオ (アケビ型)